A Study of Japanese Translations of Puns in Alice's Adventures in Wonderland : From the Meiji Era to the Reiwa Era

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏目, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/7047

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

『不思議の国のアリス』の言葉あそびの翻訳の比較
―― 明治時代から令和時代まで ――

夏　目　康　子

1. *Alice's Adventures in Wonderland* における言葉あそび

Lewis Carroll の *Alice's Adventures in Wonderland*（1865）は，pun（洒落）満載の作品である。ほとんどの章で登場人物が洒落を口にし，言葉あそびが頻出する。言葉あそびには，pun（洒落，地口，語呂合わせ），portmanteau words（かばん語，混成語），spoonerism（頭音転換）などがあるが，『不思議の国のアリス』で最も多い言葉あそびは，pun である。かばん語は『鏡の国のアリス』の第 VI 章で Humpty Dumpty が解説してくれるように，『鏡の国のアリス』での登場が多い。頭音転換は，二作とも前者二つほどは見られない。日本では明治から令和時代に至るまで一世紀以上にわたり，『不思議の国のアリス』に数多くの翻訳作品が生まれている。本稿では，『不思議の国のアリス』翻訳の流れをたどり，言葉あそびのうち，三つの pun の翻訳を比較検討する。

翻訳者は，翻訳する際，まず原文を分解し，意味を把握し，それを日本語で再構築するという作業を行うが，特に言葉あそびの部分を訳す際，原文を一度解体してから独自の再構築が試みられる。その際，ひらがな，カタカナ，漢字という日本語表記の多様性やルビ・傍点の説明的意味づけが大きな役割を果たす。さらに，括弧・注釈により，説明を補足することもできる。極めて単純化して言えば，言葉あそびの翻訳というのは，一種の脱構築の実践現場と言える。

この作品には，tale と tail，not と knot，lessen と lesson などの同音異綴異義語，また，mine などの同音同綴異義語，fig と pig などの類似の音の語を使った言葉あそびの場面が多くある。また，慣用表現を間違って解釈したり，時には意図的に文字通り取ることによる会話の行き違いがある。例えば，時間についての慣用表現だが，第 VII 章ではアリスの発言「拍子をとる」“I have to beat time when I learn music” を帽子屋が文字通り “He wo'n't stand beating”「Time さんは打たれるのが我慢ならない」ととって，話がずれる

(63)。また, 第 IX 章で Mock Turtle が, 先生は an old Turtle (海亀) なのだが, 生徒から Tortoise（陸亀）と呼ばれていた，なぜなら “he taught us” だからと屁理屈をこねる。tortoise を taught us とかけるのは，日常的にも言葉あそびを得意としたキャロルらしい pun である[1]。このように，『不思議の国のアリス』では様々な次元での言葉あそびが見られ，相手を煙に巻くために使われたり，時には意図的に取り違えて相手を非難したり，あるいは読者の笑いを誘うために行われる。

楠本君恵は，Warren Weaver の，『不思議の国のアリス』を他言語へ翻訳する上での次の五つの問題点について検証している（118-166）[2]。(1) 詩 (2) 言葉あそび (3) キャロルの造語またはナンセンス語 (4) 論理を含むジョーク (5) 意味のひねり “twist” の 5 点である。まず，(1) については，『不思議の国のアリス』に登場する 10 編の詩のうち 8 編が有名な詩のパロディだが, 原詩は日本ではよく知られておらず, 韻律の面白みも訳では伝えにくい。(2) は，tail と tale, not と knot などのような同音異綴異義語，mine などの同音同綴異義語などによる言葉あそびである。(3) は Mock Turtle（Soup）のようなキャロル独自の造語である。(4) は, 慣用句などにおける論理的ジョーク, (5) は，例えば，“I don’t think－”, “Then you shouldn’t talk” said the Hatter. における「私は～と考えてはいない」という意味の否定形にたいし，「考えていないなら喋るな」などの屁理屈である。このような原文の面白みを日本語で伝えるのは難しく，訳しにくいものが多い。本稿では，Weaver の挙げたなかで，主に (2) の言葉あそびを検討するが，この Weaver の分類に収まらない，文法上の破格の用法についても具体例を挙げ，各訳者のルビ，漢字・ひらがな・カタカナの活用についても検討する。

2. 言葉あそびの翻訳文の比較

(1) “tale” と “tail” の訳

本章では，具体的に英語での言葉あそびがどのように訳されているのかいくつか場面をピックアップし，比較する。まず，第 III 章の同音異綴異義語で話が混乱する場面の “tale” と “tail” の訳語を検討する。ネズミは tale のことを言っているのに対し，アリスがネズミの tail と勘違いする場面である。“Mine is a long and a sad <u>tale</u>” said the Mouse, turning to Alice.... “It is a long <u>tail</u>, certainly,” said Alice, looking down with wonder at the Mouse’s <u>tail</u>; “but

why do you call it sad?”（27-28 下線筆者）

1.『私のは長くて其の上可哀相なの』と云って，鼠は愛ちゃんの方へ振向きながら長太息を吐きました。『長いの，さう』と云って，愛ちゃんは，鼠の尾を不思議さうに眺めて，『でも何故可哀相なの?』（丸山 1910）
2.「わたしのお話は長くつて悲しいお話ですよ」「全く長い尾はなしだわ」[3]（楠山 1920）
3.『私のテール（お話）は長い，そして悲しいお話です。』『全く貴方のは長いテール（尾）だわ。』（望月 1923）
4.『私の經歴談は長い長い―悲しい話（テイル）であるのです』『そりやもう長い尾（テイル）だわ勿論……ね!』（益本 1925）
5.『長い悲しい話だよ!』（大戸 1926）
6.「わたしのお話は長い，そして悲しいものなんです。」「全く長い尾（しっぽ）だわ。」（英語で「おはなし」という言葉は「尻尾」という言葉と音が同じに聞えるのです。）（菊池 1927）
7.「私のはと申せば長い哀れなお話（テール）です」「長い尾（テール）には違いないけれど」（岩崎 1929）
8.「わたしの身の上ばなしをいたしましょう。―それはそれは，長い悲しいのを!「長くて，悲しい尾だって。そういえば確かに長い尾（お）だわ。」（田中 1955）
9.「わたしの身の上となると，これは悲しい，長いおはなしですよ!」「どうして長い尾（お）は無（な）し，なのかしら」（生野 1971）
10.「私の身の上話は長い悲しい話（テール）です」「もちろん長い尾（テール）には違いないでしょうけど」（福島 1975）
11.「長い，悲しい話（テール）になるんだよ。」「そりゃ，あなたのことだから，長いしっぽ（テール）にきまってるわ。」（原 1977）
12.「わたしのは，長い，悲しいオハナシです。」「尾ハナシって，長いしっぽがあるじゃないの」（芹生 1979）
13.「わたしのは悲しい話で，とくに掉尾（ちょうび）が触りなんです」「確かに長尾は触りになりますね……でも，悲しいとおっしゃるのはどういうわけ」（石川 1980）
14.「悲しい長いお話でなあ」「長い尾は無しですって」（柳瀬 1987）

15.「長くて悲しい話なんだよーっ!」「たしかにながーい尾(テイル)だなあ」(北村 1987)
16.「わたしのは，長い悲しいお話なんでね」「たしかに長い尾生(おは)やしってとこね」(矢川 1990)
17.「ぼくのは, 長くてかなしいお話なのです」「たしかに, ながーい尾話（お話）ですねえ」(山形 2003)
18.「わたしのは，しっぽりと泣けるような長い話です」「本当に長いしっぽだわ」(楠本 2006)
19.「長い悲しい尾ひれつき」「たしかに長いわね」……こんな尾話かなと考えたのでした。(高山 2015)
20.「話せば長い，しっぽり悲しい，身のうえさ」「たしかに長いしっぽではあるけれど」(大西 2015)
21.「長くて悲しいお話だ!」「なるほど，ほんとに長い尾はなしでしょうね」(芦田川 2016)
22.「わたしの身の上話は，なが〜い悲し〜いオ話なのです!」「確かに，なが〜いオだわ」(安井 2017)
23.「長くて悲しいお話になるな」「たしかに長い尾だわね」「その尾はなしを……」(高山 2019,12)

明治時代の丸山訳では，tale と tail で洒落になっていることがわからないが，楠山訳では,「お話」と「尾はなし」なので，わかりやすい。望月訳では「テール（お話)」と「テール（尾)」と括弧で説明している。一方，益本の「話(テイル)」と「尾(テイル)」はルビで音が同じことを示している。大戸は「長い悲しい話だよ!」とだけ訳し, アリスが取り違える部分は訳していない。明治, 大正, 昭和時代とも，音に注目し，話(テイル)と尾(テイル)と漢字にルビをふる訳が目立つ。また，尾話，尾はなし，オ話，おはなしというもの，ルビやかっこで注や解説をつけるもの,「尾生やし」「尾は無し」など日本語のしゃれにするもの，尾話（お話）という風にカッコで言い換えるもの,「しっぽり」と「しっぽ」で日本語のしゃれにするものがある。通常は漢字にひらがなのルビをふることが多いが，ここではひらがなにカタカナのルビを振り，音を示しているものがある。いずれも訳者の工夫が見られるが,「尾話」や「尾はなし」のように, tail の「尾」と tale の「話・はなし」を結びつけて訳すことが多い。楠山や

生野や柳瀬訳では，「尾は無し」と「おはなし」をかけ，原文の語呂合わせの面白みを伝えている。矢川の「尾生(おは)やし」は独自の工夫があり，異色である。この様に，言葉あそびの訳では，漢字とルビの組み合わせが意味と音を同時に伝えるため活用され，訳者の工夫が表れる。

(2) “Curiouser and curiouser”の訳

文法上での誤用から派生する面白みが生まれるのは，第II章の，自分の身体がどんどん伸びることに戸惑うアリスの言葉“Curiouser and curiouser”である。形容詞を比較級にする時，3音節以上の形容詞はmore, mostを使うのが一般的である。common, often など2音節語でもmore, mostを使う傾向があり, 英語史の流れからみても, -erよりもmore, mostを使って比較級・最上級にする方向にあるので，アリスのこの言い方は文法的にも，英語史の観点からも変則的な言い方である（安井 313）。“Curiouser and curiouser!” cried Alice (she was so much surprised, that for the moment she quite forgot how to speak good English).（16）はどのように訳されているのだろうか。

1.『奇妙々々!』と愛ちやんが叫びました（非常に驚いた為に何と云って可いかちよつと解らず）（丸山 1910）
2. 不思議な気持ち，不思議な気持ち，思はず胸に手を置いて何んとも云ふことの出来ない此の不思議な気持を考へた時，綾子さんの身體は段々伸びて行くのでありました。（丹羽 1911）
3.「おやおや變だわ。」アリスは急に叫び立てました。（楠山 1920）
4.「變だわ！變だわ!」（アリスはしばらくの間は口もきけない位でした。）（望月 1923）
5.「おや　へんだわ，へんだわ。」まりちやんは　思はず大ごゑを　出しました。（鷲尾 1925）
6.『なんてまあ，奇妙な気持なんだらう!』とアリスは云ひました。（益本 1925）
7.『あらあらおかしいわ。』とアリスは叫びました。（大戸 1926）
8.「変ちきりん，変ちきりん。」（もつと正しい言葉を使うことを忘れてしまつたのでした。）（菊池・芥川 1927）
9.「愈々益々奇妙きてれつだわ!」（暫くは立派な言葉が口に出なかったので

す）（岩崎 1929）
10.「まあ，へんてこれんな！」（とっさのまに正しいことばづかいを忘れてしまったのです。）（田中 1955）
11.「ますます変てこりんになってくわ！」（正しいことばづかいをとっさに忘れてしまったのでした）。（生野 1971）
12.「だんだん，へんちきりんになっていくわ！」（とっさには正しいことばのつかいかたも思いだせなかったのです。）（高杉 1972）
13.「変てこりんなの，おかしいの！」（すぐには上品なことばづかいをするのを思いつかなかったのです）（福島 1975）
14.「ますます，へえーんだわ！」（とっさには正しいことばづかいを忘れてしまったのです。）（原 1977）
15.「てこへんだわ。ほんとにてこりんへん。」ちゃんとしたことばを度忘れしてしまったのです。（芹生 1979）
16.「いよいよもって奇妙てけれつかま不思議」まともな言葉が出てこなかったのです。（石川 1980）
17.「ますます, 妙だわ, ちきりんよ！」正しいことばづかいを一瞬忘れてしまったのです。（高橋 1985）
18.「奇妙れてきつ！奇妙れてきつ！」（一瞬，正しい言葉遣いを忘れてしまったのだ。）（柳瀬 1987）
19.「てこへん，へんてこ！」つい正しい英語を忘れちゃったのさ。（北村 1987）
20.「へんてこんて，へんてこんてえ！」（まともなことばづかいだって，とっさには出てこなくてね）。（矢川 1990）
21.「てんてこりんだわ！てんてこりん！」へんてこな言葉をさけんでしまいました。（宗方 1992）
22.「まあ, へんてこてんだわ！」（正しい言葉づかいを忘れてしまったのです。）（脇 2000）
23.「チョーへん！」（ちゃんとしたしゃべり方を忘れちゃったんだね）。（山形 2003）
24.「何これ, どんどんヘンテコりょん！」一瞬まともな言葉遣いを忘れちゃったわけさ。（村山 2006）
25.「き**みょ**うね，き**みょ**うね！」（どこにアクセントをつけるか忘れてしまっ

たのです）（楠本 2006）
26.「へんてこりんがどんどこりん！」（きちんとした言い方を忘れてしまったのです。）（河合 2010）
27.「あれえっれれれっ！」（ちゃんとした言葉になりません）。（高山 2015）
28.「**変すぎ**, すぎるわよ！」（正しい言葉づかいを, ど忘れしてしまったんだ）。（大西 2015）
29.「へんてこりんすぎ！」（とっさに正しい言葉づかいを忘れてしまったのです）。（芦田川 2016）
30.「へんこてりん，へんこてりん！」（その瞬間ちゃんとしたことばを忘れてしまったのです）。（安井 2017）
31.「ふぎしったら，ふぎしっ！」（一瞬ちゃんとした口の利き方をすっかり忘れてしまっていたのです）。（高山 2019, 4）
32.「チョーヘン, チョーヘン！」（とても変（へん）ってちゃんと言うことができなかったみたいだね）。（高山 2019, 12）

明治・大正時代の丸山，丹羽，楠山，望月，鷲尾，益本訳では，アリスの言葉遣いが通常のものではないことを意識せず, 単に「奇妙」「ふしぎ」「変」ととっている。curious の比較級への関心が薄かったのだろう。このアリスの言い方が破格であることを訳の上で明らかにしたのは,「変ちきりん」とした昭和初期の菊池・芥川訳からである。昭和時代以降は，さまざまな工夫が見られ，訳者の造語とも言える独自の訳語が多い。

昭和（1926 ～ 89）時代からの “Curiouser” の造語的訳語は，およそ 6 種類に分類される。一つ目は「へんてこ」や「へんちくりん」の変形である,「変ちきりん」「へんてこれん」「変てこりん」「へんちきりん」「てこへん」「てこりんへん」「へんてこんて」「へんてこてん」「ヘンテコりょん」「へえーん」「へんてこりんがどんどこりん」「へんてこりんすぎ」である。さらにそれが変形された宗方訳「てんてこりん」もある。既訳とは異なる新たな訳語を生み出すために，訳者が自由に言葉を変形させている。

二つ目が,「奇妙々々」「奇妙きてれつ」「奇妙てけれつかま不思議」「妙だわ　ちきりんよ」「奇妙れてきつ」のように,「奇妙」や「妙」を使った訳語である。三つ目が「ふぎし」など「ふしぎ」の変形，第四として「あれえっれれれっ」という感嘆詞，第五として楠本訳のアクセントの位置を変えると

いうもの, 第六として,「チョーへん」などの若者言葉がある。このように, 色々な工夫が見られるが，最も多いのは「へんてこ」の変形である。そもそも原文が英語の誤用なので，日本語でも文法的におかしな，崩れた言葉で良い。『ジーニアス英和大辞典』での curious の訳には,「1) 好奇心が強い 2) 奇妙な, 好奇心をそそる, 珍しい, 不思議な」とあるが, この 2) の意味を変形させて, 訳者は自在に言葉を作り出している。

稲木・沖田によると，コーパスによりアリスに関する「不思議」の語を作品全体から抽出すると，queer が 6 例，odd が 1 例，strange が 1 例，curious が 14 例となり, curious が最も多い。curious は「変てこな」対象物・人に積極的に関わろうとする意識が強くある場合に使われ，第 VI 章以降に片寄って使われていることを稲木・沖田は指摘している。イモムシに教えてもらったキノコによって，身体の大きさの変化を調整できるようになり，アリスはより自主的に積極的に冒険を続けることが可能になったことが不思議語の使用に表れていると稲木・沖田は述べている（26-27）。

また，もう一つ興味深いのは，高山訳のように，同じ訳者が，出版の度に新たな訳語を生み出している例である。それだけ，言葉あそびの訳には，訳者にも「あそび」の余地があることの証左である。

次に，かっこ内でコメントされている語り手の言葉 “good English” がどう訳されているかまとめると,「正しいことばづかい」「立派な言葉」「上品なことばづかい」「ちゃんとしたことば」「正しい言い方」「正しい英語」「まともなことばづかい」「ちゃんとしたしゃべり方」などがある。挙げた例では「正しい」が多いが，アリスが自分の身体がどんどん大きくなっていくことに驚き戸惑い，思わず叫んだという状況からも，この場合の “good English” とは,「きちんとした言い方」「ちゃんとした言い方」という意味である。ここでは，正しい，立派な，上品なという意味ではない。不思議の国に来た当初は，ネズミなど話し相手を憤慨させることが多かったアリスだったが，不思議の世界に馴染んでからは始終丁寧な話し方を試みている。このようなヴィクトリア朝の上層中産階級の少女が話す，きちんとした話し方という意味である。

(3) “Tortoise” と “taught us” の訳

本節では，1 語と 2 語連結による同音異義語の言葉あそびをみる。次は,

第 IX 章で，アリスと偽ウミガメが海の底での学校について話している場面の偽ウミガメの発言である。

“The master was an old Turtle――we used to call him Tortoise――” “Why did you call him Tortoise, if he wasn’t one?” Alice asked. “We called him Tortoise because he taught us,” said the Mock Turtle angrily (83).

この部分で，“Turtle” は “Tortoise” と呼ばれていたと偽ウミガメが言うが，アリスがそれに対して理由を聞くと，当然だという調子で，偽ウミガメは “he taught us” と答える。「海亀（タートル）」→「私たちに教えた（トーータス）」→「陸亀（トータス）」の移行は，“tale” と “tail” の 2 語の pun よりも複雑である。この 3 語が関わる pun では，同音であることを伝えつつ海亀が陸亀に変わる理由を日本語で表すのは難しい。この語呂合わせを，明治から令和時代の訳者はどのような日本語に置き換えているだろうか。

1. 『校長先生は年老いた海龜でした―――私どもは其の先生を龜ノ子先生と呼び慣らしてゐました。』『何故龜ノ子先生ッて呼んだの，然うでないものを ?』（丸山 1910）
2. 『先生は年の老つた**カム**でした―――私達はそれを龜先生といつたのです―――。』『龜で無い者を，何故龜といつたのです ?』（永代 1912）
3. 「先生は年をとった海龜でした。―――あなたは本当にしないかもしれないが―――「あたしそんなこと言やしないわ」。（楠山 1920）
4. 『先生と云ふのは年寄つた海亀で，皆んなはその人のことを「龜（き）」つて云つて居ました。』『どうしてその先生のことを「龜（き）」つて云つてたの』（望月 1923）
5. 『校長は非常な老人の海龜（タートル）であつて，我々はそれを龜（トーチス）と呼びなれてゐたさ。』（益本 1925）
6. 「先生は年をとつた海亀でした。――わたし達は先生のことを正覺坊（しやうがくぼう）先生，といつもいつてゐました――。」……「なぜつて小學本（せうがくほん）（正覺坊（しやうがくぼう））を教えますからさ。」（菊池・芥川 1927）
7. 「先生は年をとった海亀でしたが，私たちは陸亀（おかがめ）先生と言っていました」……「先生は私たちの亀艦（おかがみ）だから陸亀先生でさあ」（岩崎 1929）

8.「先生は年よりの海ガメで――わたしたちは正覚坊先生（正覚坊は海ガメの一種）と言っていました。」.....「小学校の先生だから正覚坊先生と言ったんだよ。」（田中 1955）

9.「わたしたちは先生のことをいつもゼニガメとよんでいました」……「その先生はゼニに目がなかったからですよ」（生野 1971）

10.「先生は年とった海亀（タートル）だったが――私たちは陸亀（トートイス）と呼んでいたっけ」「そりゃ，先生が勉強を教え（トートアス）てくれたからそう呼んだんだよ」（福島 1975）

11.「先生は年よりの海がめ（陸がめ）でした。わたしたちは，その先生のことをトータス先生って呼んでいました」……「その先生は，わたしたちの勉強を到達させてくれたからですよ」（原 1977）

12.「わたしたちはいつも，スッポンと呼んでいました。」「そう呼んだのはですね……スポンスポンと落第させるからにきまってるでしょう」（芹生 1979）

13.「先生は年輩の海亀（タートル）でしたが――生徒たちは陸亀（トートイス）と呼んでいました」「先生は……尊い師じゃないか」（石川 1980）

14.「先生は年とったウミガメだったが――みんなはいつも『カメ』と呼んでいた」「わたしたちの知識をたかめてくれるからカメと呼んだんだよ」（高橋 1985）

15.「校長先生は年とったウミガメ（タートル）だったけどよう――ぼくたちオカガメ（トータス）っていってたんだよう」「ぼくらに教えたから，オカガメ（トータス）っていうんだいっ！」（北村 1987）

16.「先生は年寄の海亀だったが――みんなして地亀（ちかめ）先生と呼んどったよ」「先生ってのはたいてい近目（ちかめ）に決まっとるじゃないか」（柳瀬 1987）

17.「先生は，年とった海ガメでしたが，タコというあだ名でした」「だってぜにかねとって，勉強教えるじゃないか」（矢川 1990）

18.「先生は年とった海ガメでしたが，タコというあだ名でした」「生徒に人気があれば，ひっぱりだこですがね，人気のない先生だったので，ただのタコと呼んでいたのです」（宗方 1992）

19.「校長先生は，おばさんガメで僕たちは，オスガメってよんでたけど」「すが目だったからに決まってるではないの，だからおすがめ」（山形 2003）

20.「先生は年とったウミガメじゃったが――わしらは『オトガメ先生』と呼んでいたもんさ」「わしらのいたずらをしょっちゅうお咎めになったからに

決まってるじゃないかね」（村山 2006）
21.「先生は年寄の海ガメだったけど，茶々と呼ばれていた」「先生はティーチャだろ。ティーとは茶のことだ。だから茶々じゃないか」（河合 2010）
22.「先生は年寄りの海亀だったが，うちら『よくカメ先生』と呼んでた」「よく咀嚼，が口癖だったからさ」（高山 2015）
23.「先生は年よりのウミガメだったけど，ぼくらはオカガメと呼んでたものさ」「おかめ，だったからさ」（大西 2015）
24.「先生は年寄りのウミガメだった――ぼくらはミズガメと呼んでた」「ぼくらのこと見ないから，ミズガメと呼んでたんだ」（芦田川 2016）
25.「先生は年とったウミガメじゃった――わしらは，いつもリクガメ先生って呼んでおったがな」「リクつ（理屈）を教えてくれたカメ先生だから，リクガメ先生って呼んでいたんじゃ」（安井 2017）
26.「先生は年寄りのタートル――もっとも私ら，トータス先生と普通に呼んでたがね」「トート・アス，私らに教えた，だからトータス」（高山 2019,12）

ここでは，“Turtle”と，そして音が同じ“Tortoise”と“taught us”をどう訳すかが問われているが，明治・大正時代の訳では，かなり苦し紛れの訳となっている。「海龜と龜ノ子先生」「**カムと**龜先生」「海亀と龜（き）」「海龜（タートル）と龜（トーチス）」という具合に，それぞれ何とか工夫しているが，taught us の意味は伝わっていない。楠山訳では，後半の taught us の部分を省略し，訳していない。昭和初期になると，菊池・芥川訳と田中訳で，「海亀と正覚坊（しやうがくぼう）先生」と訳される。正覚坊というのはアオウミガメの別名であり，小学校の先生とかけており，工夫が見られるが，ただし，両方とも海亀になってしまい，陸亀ではない。岩崎訳ではルビがふられ「陸亀（おかがめ）」と「亀艦（おかがみ）」でかけている。岩崎訳は，「御鏡（おかがみ）」と音が同じ「亀艦（おかがみ）」という語を造り出すことによって，音の類似性と，「教える陸亀」の意味をうまく伝えている。

北村訳では，「ウミガメ（タートル），オカガメ（トータス），ぼくらに教えた（トータス）」という具合に，カタカナやひらがなや漢字にカタカナのルビをふるという事態に陥っているが，「オカガメ」と「ぼくらに教えた」が同じ音だということがわかりやすい。福島訳でも，「陸亀（トートイス）」と「教えて（トートアス）」と音をルビで伝えている。柳瀬訳は，しばしば原文から離れ，独自の言葉あそびに陥る傾向があるが[4]，ここでも原文から離れ，「地亀（ちかめ）」と「近目（ちかめ）」の日本語の語呂合わせにしている。原訳でも，

同じように原文から離れた「トータス（陸がめ）」と「到達」の語呂合わせになっており，カタカナに漢字も入ったルビをつけるという通常と反転した使い方をしている。石川の「陸亀（トートイス）」と「尊い師」，村山の「オトガメ先生」と「お咎め」にも，何とか「教えること」にからめようという訳者の工夫がうかがえる。

原文から離れているものでは，生野「ゼニガメ」，芹生「スッポン」，矢川と宗方「タコ」，山形「オスガメ」，河合「茶々」，高山（2015）「よくカメ」，大西「おかめ」，芦田川「ミズガメ」など，カメに近い生き物や，音が似ているものを繰り出したそれぞれ独自の日本語の語呂合わせとなっている。独自の面白さを追求しているが，「教える陸亀」からは離れている。一方，安井訳では，ウミガメからリクガメになる理由を「リクつ」を教えてくれたカメだからとしている。原文から離れすぎず，ウミガメとリクガメをうまくつないだ訳である。高山（2019, 12）訳は，「タートル，トータス先生，トート・アス」という具合に，日本語への置き換えは試みず音をそのまま表記するシンプルな解決法である。

そもそも，これは，自分自身が本物の海亀ではない Mock Turtle，つまり偽ウミガメの発言である事実に立ち戻ると，海亀と陸亀を区別することの意味も曖昧になってくるのだが，以上のように，言葉あそびとしては多様な訳が試みられている。tale と tail の同音異義の 2 語の pun に比べ，これだけ多様な訳が生まれているということは，それだけキャロルお気に入りの，3 語が絡む pun を訳すことが難しいことを示している。作者キャロルは，この日本語訳の言葉あそびの繚乱を見たらどう思うだろうか。英語での一つの言葉あそびが，日本語での大量の言葉あそびを生み出していることになる。

3. 翻訳の一世紀

『不思議の国のアリス』の三つの言葉あそびの訳を検討した。同音異義語や文法の破格表現による pun を日本語に移し替えるのに，注釈・解説なしでは原文の面白みを正確に伝えるのは難しい。文法の破格表現の訳では，英語も破格なので，日本語でも枠に囚われることなく，自由な訳語作りが見られる。同音異義語の語呂合わせや，音の面での言葉遊びでは，漢字にルビや傍点をふって読者の注意を促し，ひらがな，カタカナをうまく使うなどの工夫が見られるが，ルビでも処理しきれない pun は，原文から離れた日本語独自の洒落・言葉遊びに陥っているものも多い。

一世紀にわたる『アリス』翻訳史を概観すると，英語の言葉あそびの日本語への移し替えにおいて，初期は，言葉あそびに関りなく，そのままの直訳が見られた。明治，大正時代の訳者は，言葉あそびが行われていることに気づかなかったか，あるいは，気づいても，日本語による言葉あそびに移し替える必要を認めなかった可能性がある。第二が，なんとか英語の言葉あそびを生かしながら，日本語の言葉あそびを作り出そうと試みる訳である。訳語には訳者の工夫が表れる。例えば，菊池・芥川訳には原文の言葉あそびを日本語でも表そうというパイオニアの自負がうかがえる。

第三が，英語の言葉あそびから離れ，全く独自の日本語での言葉あそびを作り出す例である。“Tortoise”と“taught us”の言葉あそびの訳では，多くの訳者がこの方法を試みている。しかし，原文から離れてしまうため，日本語での言葉あそびがいくら巧みでも，この方法には疑問が残る。やはり，言葉あそびの訳としては，第二の，英語の言葉あそびを生かしながらなんとか日本語の言葉あそびに移し替える試みが望ましいのではないか。その際，ひらがな・カタカナ・漢字の使い分けと，ルビ・傍点の活用が生きてくる。ルビの使用においては，ひらがなに漢字のルビ，カタカナに漢字のルビ，カタカナにカタカナのルビなど，一般的なルビの用法とは異なる，音や説明を付与したルビの使用が見られた。また，「タートル，トータス先生」など，単純だが，日本語にすることなく英語の音をそのままカタカナで表記する方法も見られた。かっこや注釈を使っての言葉あそびの解説という手段もあるが，これは，文の流れを中断してしまうというマイナス面もある。

訳される英語は，ある時代に固定されたものだが，訳す日本語自体は変化している。これほど数多くの翻訳作品を生み出す日本の土壌について考えると，日本では原文ではなく，訳文で読むという需要が多いことと，そもそも古くから中国のものを日本へ移入してきた歴史に見るように，外来文化を日本流に変換して受け入れことが巧みだったことがある。新たな翻訳が毎年のように生み出されているが，翻訳というジャンルは副次的なものというより，日本では一つの文学ジャンルとして確立していると言える。若者言葉や流行語の登場，ジェンダー観による言葉遣いの違いなど，時代により，言葉遣いも，時代背景も，ジェンダー意識も変わる[5]。

一人の翻訳者が複数の翻訳作品を出しているのも，『アリス』特有の現象である。柳瀬尚紀は，文末を変え，子ども向けと大人向けの翻訳を出し，高

山宏は，その都度訳語を変え，挿絵を変え，複数の翻訳を出版している。21世紀には，テニエルの画風とは全く異なる，ライトノベル風のイラストを添えたサブカルチャー的な翻訳も出版されている。河合祥一郎は，訳文の基本は変えず，漢字を減らし，ひらがなを増やし，イラストをジョン・テニエルから現代日本の漫画風に変えることによって，低年齢向けの訳も同時期に出している。新たな読者を獲得するための，出版社も巻き込んだ戦略だろう[6]。時代により，読者層も読者の受容度も変化していく。明治から令和までの翻訳を概観したが，21世紀，機械翻訳の台頭を受けて今後どのような翻訳が生まれるのか注視していきたい。

注

1 作者キャロルは，次の記事でもこの pun を使っている。“What the Tortoise said to Achilles” *Mind* (April, 1895)（ガードナー 235）。

2 Weaver の分類については，楠本君恵『翻訳の国の「アリス」』で詳しく解説されている（118-66）。

3 訳文は，地の文を省略し，会話部分を主に表記することもある。著者名の次の数字は，出版年を表す。

4 柳瀬訳と菊池・芥川訳については，拙論「菊池寛・芥川龍之介は『不思議の国のアリス』をどう訳したか―丸山英観訳，柳瀬尚紀訳との比較」*Otsuma Review* 第 53 号，大妻英文学会 2020, 10）で分析している。

5 拙論，研究ノート「『不思議の国のアリス』の翻訳をジェンダーの視点から考察する―人称代名詞と会話文を中心に―」『日本語とジェンダー』第 19 号，日本語ジェンダー学会 2021, 2）で論じている。

6 河合祥一郎訳の角川つばさ文庫のイラストは okama（漫画家・イラストレーター）によるもので，目黒強が *Winnie-the-Pooh* の訳でハイ・カルチャーと区別し，サブ・カルチャーと呼ぶものである（目黒 196）。

参考文献

Carroll, Lewis. Hugh Haughton ed. (1865, 1871) *Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass*. Penguin Classics, 1998.

Gardner, Martin ed. (2015) *The Annotated Alice: 150th Anniversary Deluxe Edition*. New York: W. W. Norton & Company. 高山宏訳（2019）『詳注アリス　完全決定版』亜紀書房.

Weaver, Warren (1964) *Alice in Many Tongues: The Translation of Alice in*

Wonderland, U of Wisconsin.
稲木昭子・沖田知子（2015）『アリスのことば学――不思議の国のプリズム』大阪大学出版社.
下笠徳次（2017）『近代英語の精華「不思議の国のアリス」を英々辞典 PDO と LDOCE で精読して行く !』
楠本君恵（2001）『翻訳の国の「アリス」』未知谷.
千森幹子（2015）『表象のアリス』法政大学出版局.
目黒強「阿川佐和子訳『ウィニー・ザ・プー』と教養主義的読書観」（2019, 1）『ユリイカ 特集阿川佐和子』
安井泉（2017）『対訳・注釈 不思議の国のアリス』研究社.

引用翻訳作品

芦田川祐子訳（2016）『不思議の国のアリス』,『ルイス・キャロル』集英社文庫.
生野幸吉訳（1971）『ふしぎの国のアリス』福音館書店.
石川澄子訳（1980）『不思議の国のアリス』東京図書.
岩崎民平訳（1929）『ふしぎ國のアリス』研究社新訳註叢書，1952.
大西小生訳（2015）『ふしぎの国のアリス』ネガ！スタジオ.
河合祥一郎訳（2010）『不思議の国のアリス』角川文庫；『ふしぎの国のアリス』角川つばさ文庫.
菊池寛・芥川龍之介訳（1927）『アリス物語』文藝春秋社.
北村太郎訳（1992）『ふしぎの国のアリス』集英社文庫.
楠本君恵訳（2006）『不思議の国のアリス』論創社.
芹生一訳（1979）『ふしぎの国のアリス』偕成社文庫.
高杉一郎訳（1972）『ふしぎの国のアリス』講談社.
高橋康也・高橋迪訳（2005）『不思議の国のアリス』河出文庫，1988, 新書館.
高山宏訳（2015）『不思議の国のアリス』亜紀書房.
高山宏訳（2019, 4）『新訳ふしぎの国のアリス 鏡の国のアリス』青土社.
高山宏訳（2019, 12）『詳注アリス 完全決定版』亜紀書房.
多田幸蔵訳（1975）『不思議の国のアリス』旺文社文庫.
田中俊夫訳（1955）『ふしぎの国のアリス』岩波少年文庫.
千森幹子編（2009）『不思議の国のアリス～明治・大正・昭和初期邦訳本復刻集成 全 4 巻』エディション・シナプス（丸山英観訳（1910）『愛ちやんの夢物語』，丹羽五郎訳（1911）『長編お伽噺 子供の夢』，楠山正雄訳（1920）『不思議の國』，望月幸三訳（1923）『アリスの不思議國めぐり』，鷲尾知治訳（1925）『まりちやんの夢の國旅行』，益本青小鳥訳（1925）『お轉婆アリスの夢』，大戸喜一郎訳（1926）『不思議國めぐり』は，本書から引用）

福島正実訳（1975）『不思議の国のアリス』角川文庫.
宗方あゆむ訳（1992）『ふしぎの国のアリス』金の星社.
村山由佳訳（2006）『不思議の国のアリス』メディアファクトリー.
原昌訳（1977）『ふしぎの国のアリス』国土社.
矢川澄子訳（1990）『不思議の国のアリス』新潮文庫，1994.
柳瀬尚紀訳『不思議の国のアリス』ちくま文庫，1987；集英社，1990.
山形浩生訳（2003）『不思議の国のアリス』朝日出版社.
脇明子訳（2000）『不思議の国のアリス』岩波少年文庫.